古代ルーン文字で占う

# '93年の仕事・恋愛・結婚運

'92年も終わりに近づき、そろそろ来年のことが気になりだします。「転職をしたいけど、どうしようかナ?」「彼がみつからないけど」「そろそろ結婚したい」など…。そんなアナタの"来年こそは…"の気持ちを、古くからヨーロッパに伝わるアルファベット文字ルーンで占ってみませんか?

監修/魔女クラブ　矢木品子、摩川綱・S　イラスト/赤江橋淫子　撮影/亀井洋方

## ヴァイキングたちによって伝えられた神秘的なルーン文字

### ルーンとは

ルーンとは「ささやく、神秘的に低い声で語る」を意味するraunenからきています。ルーンは新約聖書よりも古い時代から、ヨーロッパに存在していた古代アルファベット文字です。北欧に多く見られる石碑文や占い、詩に使われていましたが、話し言葉としては一般に開放されませんでした。それはルーンが魔力をもつ印璽であり神秘的なメッセージを送るものだと人々が思っていたからです。その非開放性ゆえに、ルーンは占いや呪文として、人々の生活や運命に影響を与えるパワーのあるものとされたのです。収穫、天候等の祭儀的なものから、魔除け、お守り等生活のあらゆる面にわたってルーンを用いていたので、ルーン術師も、自ら多くのルーンを作りました。最古のルーン文字が刻まれているのは、武器や装飾品に秘やかに彫られたものです。例えば、刀剣のこじり（刀のさやの末端につけた金属の飾り）には「剣の持ち主の全てが敵が倒されるよう」との祈願ルーンが、大切な小箱には、泥棒除けルーン。また女性のブローチには「陣痛を軽くするよう」と、まじないルーンが描かれていました。家の入口やヴァイキング船のへさきにもルーンが彫られていましたが、解読不能な呪文も数多くあります。この当時は、女性のルーン術師がかなり活躍しました。

さて、古代のルーン占いの方法ですが、自然の恵みを上手に活かしています。ルーン文字を、木片や金属の表面に彫ったり、皮に刻んだり、一般的には小石の片面に描いています。その小石を小袋に入れて、振って地面にまき散らし、上を向いているルーンのメッセージを読んで占ったと言われています。

### ルーンの歴史

ルーンがいつ頃できたのかは、はっきりわかりません。紀元前二三〇〇年頃、ヨーロッパに住んでいた人々は、岩の表面に絵文字を彫って表現していました。その絵文字は、太陽や人間、動物、武器、四角や丸など様々な形です。紀元前二五〇年から一三〇年頃、アルファベットの一種ときされる"フサルク"が作られました。その後、ライン、ドナウ河流域に住んでいた民族か、バルト海北岸に住んでいた民族が、ルーン文字の基を作ったようです。最初のルーン文字は二十四字数ありました。人々は、生活のあらゆる面で、神秘的なルーン文字を広めていったのですが、最終的に広範囲にしたのは「ヴァイキング」達です。八〇〇年頃から、ルーン文字は盛んに記念碑を建てる為に使われました。北欧には多くのルーン碑がありますが、デンマークでは二〇〇、スウェーデンでは、三〇〇〇。これらは、ヴァイキング達が「異境にて、命を落とした者への追悼の為に」と建てたものや、ロシア、ギリシア、イタリアなどへ旅した際のヴァイキング達の記録、また商人達の組合の記録や道路の敷設、橋を架けたこと等ルーン碑が教えてくれるのです。ヴァイキングの広大な行動半径によって、海の都ヴェニスの古い艦隊武器庫の門を守護している大理石獅子像にもルーン文字碑が装飾されています。アイルランド、イングランド、北緯七三度のグリーンランドにもヴァイキング植民の残したルーン碑が建てられています。二一〇〇年頃、キリスト教が広まると同時にヴァイキング達は、水に引くように消えてしまいました。ルーン術師たちも、ヴァイキングと共に死に絶えたのです。

歴史の荒波の中、三〇〇年以上沈黙を破って「ルーン」は新しい姿で今、秘密に囁きます。「幸あれ」と……。

(参考資料)
・ルーンの書(ヴォイス)
・ヴァイキング・サガ(法政大学出版局)